

なるほど古典文学講座

ポップでディープな枕草子

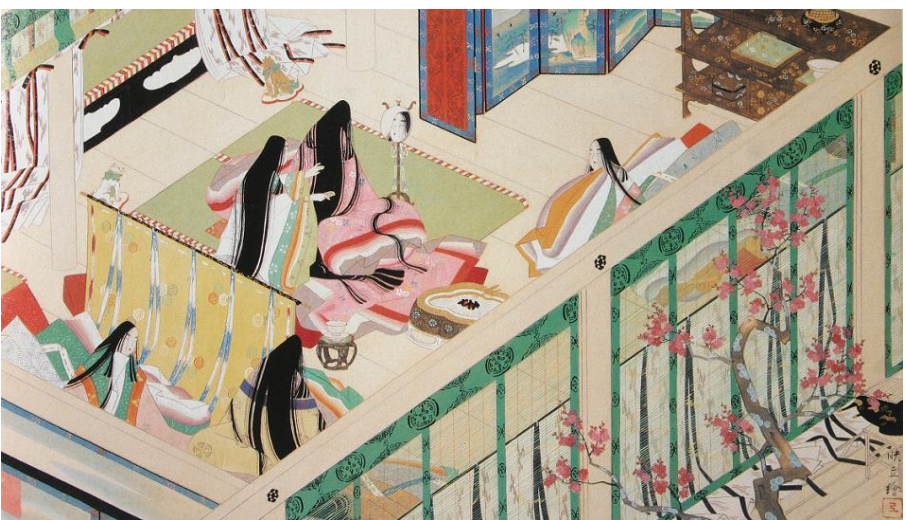
石川 恵悟

〈第一部〉

- 一． 枕草子の基礎知識
- 二． 清少納言と中宮定子

〈第二部〉

- 一． 類聚的章段るいじゆう
 - 二． 随想的章段
 - 三． 日記的章段
- 〈補〉清少納言と紫式部



- 一． 紫式部日記の清少納言批判

- 二． 枕草子と源氏物語

※段番号は『新 日本古典文学大系 枕草子』（岩波書店）に従った。

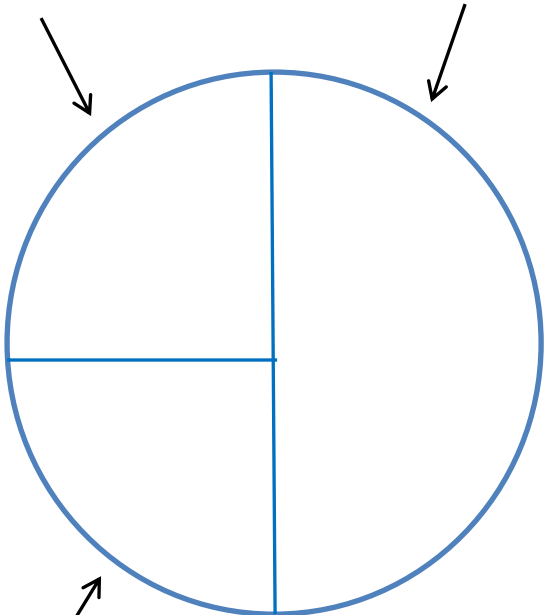
〈第一部〉

一・枕草子の基礎知識

- ・日本最初の随筆文学
- ・九九五年頃一部成立し一〇〇四年頃までに増補か
- ・原本不明、写本多数
- ・約三〇〇段から成る

およそ 1/2
類聚的章段
・ものはづけ
・ものづくし

およそ 1/4
随想的章段



およそ 1/4
日記的章段
・宮廷生活の回想



跋文より抜粋

宮の御前おまへに、内の大殿おとどの奉りたまへりけるを、「これになにを書かまし、上の御前うへには、史記といふ文ふみをなん書かせ給へる」などのたまはせしを、「枕まくらにこそは侍らめ」と申しかば、「さは、得てよ」とてたまはせたりしを…

〈ご参考〉 日本三大随筆

<p>枕草子（清少納言） 平安時代中期</p>	<p>「をかし」の文学 体言止め、省略などを用いた簡潔な文体</p>
<p>方丈記（鴨長明） 鎌倉時代前期</p>	<p>無常観、厭世思想 和漢混交文、対句や比喻が多い</p>
<p>徒然草（兼好法師） 鎌倉時代末期</p>	<p>無常観、仏教・儒教・老荘思想、現実的 和漢混交文と和文を使い分ける</p>

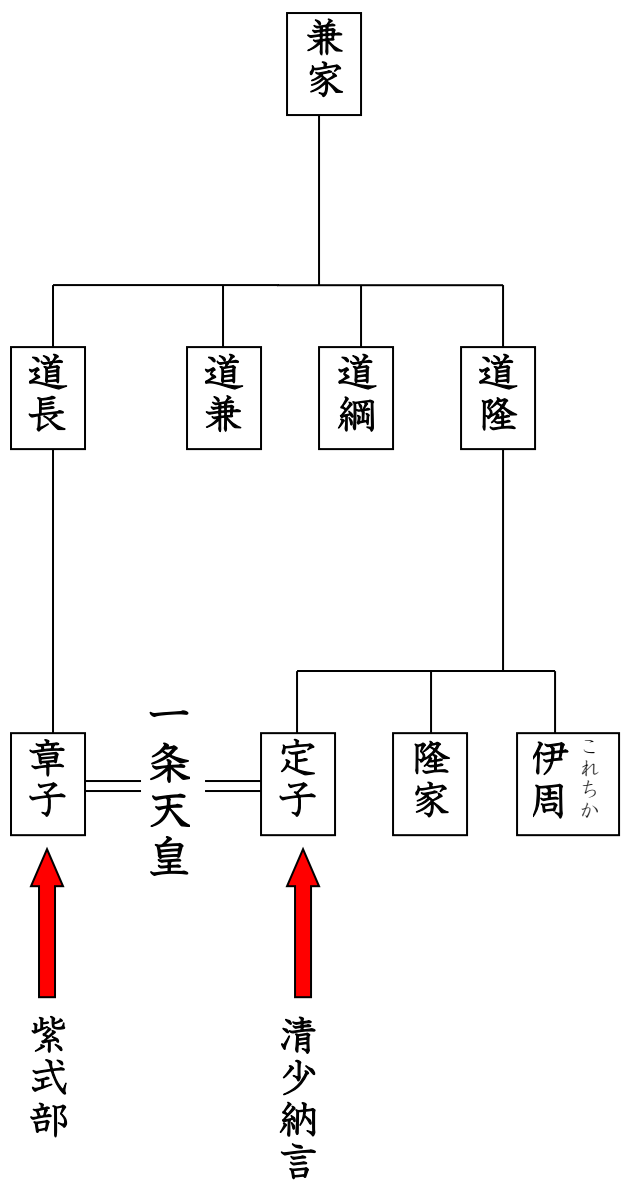
二. 清少納言と中宮定子

- ・ 父は清原元輔（高名な歌人）、不明な点多し
- ・ 中宮定子に仕える
- ・ 定子の父は藤原道隆（関白）



● 知性と教養に溢れ、明るいい性格。定子の周辺は開放的な雰囲気
気のサロンになった。

藤原氏系図（本講座関係分のみ）



枕草子関連年表

西暦	年齢	事項
九六六	1	清少納言誕生
九八一	16	清少納言橘則光と結婚
九九〇		定子中宮となる
九九一	26	清少納言藤原棟世と再婚
九九三	28	道隆関白に就任 清少納言初出仕、中宮定子に対面
九九四	29	清少納言枕草子を書き始める
九九五		道隆病に↓出家↓死去 <small>これちか</small> 伊周と道長の対立鮮明
九九六		伊周・隆家左遷
九九九		彰子入内
一〇〇〇		彰子が中宮に、定子は皇后に↓死去
一〇〇一	36	清少納言宮仕を辞去
一〇〇五		紫式部中宮彰子に出仕
一〇二五	60	清少納言このころ死去

※清少納言と紫式部に関する事項は諸説あって、年号ははっきりしない。

〈第二部〉

一・類聚的章段るいじゆう

二四段 人にあなづらるるもの

人にあなづらるるもの 家の北おもて。あまりに心よきと人に知られたる人。年老いたる翁おきな。又あはあはしき女ついで。築地ついでのくづれ。

一五九段 近くて遠きもの

近くて遠きもの 宮のべの祭。思はぬはらから、親族の仲。鞍馬のつづらをりといふ道。師走しはすのつごもり、正月むつきの一日のほど。

一六〇段 遠くて近きもの

遠くて近きもの 極樂。船の道。男女の仲。

二三四段 月は

月は 有明。ひんがし 東の山の端はに、ほそうて出づるほどあはれなり。



二・随想的章段

枕草子が語る犬と猫

二二段 すさまじきもの

すさまじきもの 昼ほゆる犬。…

二五段 にくきもの

にくきもの … しのびて来る人見知りて吠ゆる犬は、打ちも殺しつべし。…



四九段 猫は

猫は 上のかぎり黒くて、他はみな白からん。



八五段 なまめかしきもの

なまめかしきもの … いとをかしげなる猫の、赤き首綱に白き札つきて、はかりの緒くひつきて、引きありくもなまめいたり。…

六段 うへに候ふ御猫は

うへに候ふ御猫は、かうぶり給はりて、命婦みやうぶのおとどとて、いとをかしければ、かしづかせ給ふが、…

枕草子が語る女と男

○	<p>女</p> <p>侘しい暮らし…ひどく荒れ果てた、寂しげな様子の家に一人で住んでいる(一七一段)</p> <p>奥ゆかしい…人を呼び寄せる手の音が静かで上品な主人、そよそよと参上する女房(一八九段)</p> <p>教養がある…第一に習字、第二にお琴、第三に古今和歌集の暗誦(二〇段)</p>	<p>男</p> <p>機転が利く…喧嘩別れの後、絶妙なタイミングで気の利いた歌を送ってくる(二七四段)</p> <p>ファッションセンス◎…抜群の色彩感覚でコーディネートした姿にただただ見とれる(七九段)</p> <p>イケメン…説経師は顔の美しい人がよい、その方が説経のありがたみが増す(三〇段)</p>
×	<p>嫉妬深い…やきもちを妬いて雲隠れしたが、夫は平然とした態度を見せているので、のこのこ出てきた人の妻(一二〇段)</p> <p>年齢・身分不相応…若い男を夫としている年老いた女性、梅の実を食べてすっぱがる齒のない老女、紅の袴をはいている下級女官(四二段)</p>	<p>思いやりがない…立派に仕度をして婿を取ったのに、すぐに通ってこなくなる(二四七段)</p> <p>あたふたと帰る…女との逢瀬の後、名残惜しきを見せずばたばたと仕度して立ち去る(六〇段)</p> <p>口がうますぎる…心にもないことを言って女を騙す、世間で評判のよい男ほど巧み(一一九段)</p>

三・ 日記的章段

初々しい清少納言

一七七段 宮にはじめてまいりたるころ より抜粋

宮にはじめてまいりたるころ、物の恥しきこと數知らず、涙も落ちぬべければ：（後略）

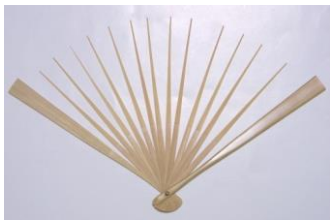
かかる人こそは世におはしましけれど、驚かるるまでぞまもりまゐらす。 （後略）

「我をば思ふや」と問はせ給ふ。御いらへに、「いかにかは」と啓するに合はせて、だいばんどころ台盤所のかたに、鼻をいとたかうひたれば、「あな心憂、こころう虚言するなりけり。よしよし」とて奥にい入らせ給ひぬ。（後略）

海月の骨 くらげ

九八段 中納言殿まゐらせ給ひて

中納言殿まゐらせ給ひて、御扇奉らせ給ふに、あふぎ「隆家こそいみじき骨を得て侍れ。それを張らせて参らせんとするを、おぼろけの紙は張るまじければ、もとめ侍るなり」と申し給ふ。



「いかやうなるにかある」と問ひ聞えさせ給へば、「すべてい
みじく侍る。さらにまだ見ぬ骨のさまなりとなん人々申す。
まことにかばかりのは侍らざりつ」と言たかく申し給へば、「
さては扇のにはあらで海月のなり」と聞ゆれば、「これは隆家
が言にしてん」とて笑ひ給ふ。かやうの事こそ、かたはらい
たきものうちに入れつべけれど、「ひとつな落しそ」と侍れ
ばいかがはせん。

香炉峰の雪



二八〇段 雪いと高く降りたるを

雪いと高く降りたるを、例ならず御格子まゐらせて、炭櫃に
火起して、物語などして集り侍ふに、「少納言よ、香炉峰の雪
はいかならん」と仰せられければ、御格子あげさせて、御簾
高く巻き上げたれば、笑はせたまふ。人々も「みなさる事は
知り、歌などにさへうたへど、思ひこそよらざりつれ。なほ
この宮の人には、さるべきなめり」といふ。

〈補〉清少納言と紫式部

一・紫式部日記の清少納言批判

清少納言こそ、したり顔にいみじう侍りける人。さばかり賢し
だち、真字書き散らして侍るほども、よく見れば、まだいと堪へ
ぬこと多かり。かく人に異ならんと思ひ好める人は、必ず見おと
りし、行く末うたてのみ侍れば、艶になりぬる人は、いとすごう
すずろなる折も、もののはれにすゝみ、をかしきことも見過ぐ
さぬ程に、おのづからさるまじく、あだなる様にもなるに侍るべ
し。そのあだになりぬる人のはて、いかでかはよく侍らん。

二・枕草子と源氏物語

枕草子

源氏物語

をかし

対

あはれ

笑い

対

泣き

笑ふ 124回

泣く 11回

笑ふ 129回

泣く 219回

(注) 回数は、渡辺実『古典講読シリーズ 枕草子』(岩波書店)による。

〔参考文献〕

- 赤間恵都子 『歴史読み 枕草子 清少納言の挑戦状』(三省堂) 2013
- 池田亀鑑 『平安朝の生活と文学』(ちくま学芸文庫) 2012
- 梅原猛 『古代幻視』(文春文庫) 1997
- 尾崎佐永子 『王朝文学の楽しみ』(岩波新書) 2011
- 角川書店編 『ビギナーズ・クラシックス 枕草子』(角川ソフィア文庫) 2001
- 川村裕子監 『図説 王朝生活が見えてくる! 枕草子』(青春新書) 2015
- 川村裕子 『平安女子の楽しい! 生活』(岩波ジュニア新書) 2014
- 清川妙 『うつくしきもの 枕草子』(小学館) 2004
- 小池清治 『『源氏物語』と『枕草子』』(PHP新書) 2008
- 五味文彦 『『枕草子』の歴史学』(朝日選書) 2014
- 鈴木日出男他 『新潮古典文学アルバム 枕草子・紫式部日記』(新潮社)1990
- 谷山茂他編 『新訂国語総覧』(京都書房) 2001
- 西村和子 『季語で読む枕草子』(飯塚書店) 2013
- 野呂俊秀 『枕草子を読み直す』(幻冬舎ルネッサンス新書) 2015
- 松尾聰他 『日本古典文学全集 枕草子』(小学館)1974
- 真下三郎・饗庭孝男監 『新編日本文学史』(第一学習社) 2005
- 宮崎莊平 『清少納言と紫式部』(朝文社) 1993
- 村上まり 『枕草子が面白いほどわかる本』(中経出版) 2006
- 山口仲美 『すらすら読める枕草子』(講談社) 2008
- 山口仲美 『NHK100分de名著ブックス清少納言 枕草子』(NHK出版) 2015
- 山本利達 『新潮日本古典集成 紫式部日記 紫式部集』(新潮社) 2009
- 渡辺実 『古典講読シリーズ 枕草子』(岩波書店) 1992
- 渡辺実 『新 日本古典文学大系 枕草子』(岩波書店) 1991